

おのきた

尾北校長室から

第41号



「誕生日」～自分史


しばらくして衆議院選挙が行われる見込みとなっている。政局はさほど詳しくはないが、国民の代表を選ぶ選挙である。必ず投票に行きたいと思う。選挙については、平成28(2016)年から「18歳選挙」が始まっているので、3年生の中にも選挙権を持っている人がいる。また、令和4年4月1日からは、法律上、大人になる年齢が18歳に引き下げられることになっている。

この大人になる年齢については、多くの国々では既に18歳であり、むしろ我が国のような20歳は少数派である。ようやく、世界の水準になったといえることができる。ただ、全てが「18歳解禁」ということではない。例えば、喫煙や飲酒など、いわば「子供の健康を守る」趣旨の規定は、なおも20歳のものであるので、特に3年生、早合点は禁物である。念のため。

ところで、私たちはいつの時点で歳をとるのだろうか？ 誕生日というのがすぐに思い浮かぶが、本当にそうなのだろうか？——いつ歳をとるのか正確に知らなくても、普段の生活ではさほどの支障はないだろう。しかし、選挙権の有無や法律上の罰則の適用(例えば「少年法」の適用)となると大きな違いとなる。未成年ではなく成年(大人)となれば、自分の行為の責任が一層強く求められ、罰則も一段と厳しくなるからである。

「年齢計算ニ関スル法律」(明治35年)では、**前日の24時をもって1年を満了し、1つ歳(満年齢)をとる**ことになっている。つまり、今日が誕生日の人は、昨日、一つ歳をとっているわけである。4年に一度しかない2月29日生まれの人も、毎年、前日の28日に歳をとっている。歳を重ねるのが誕生日の前日か当日かは、誕生パーティの日が変わるぐらいなら大したことはないように思える。ところが、4月1日生まれの人には、人生を左右する大きな影響がある。その人は3月31日に歳をとっているのに、学校では前年度の学年に属するようになるからである。(同一学年は、4/2生まれ～翌4/1生まれ)



 誕生日の前日に歳をとる、という法律上の年齢区分はさておき、誕生日は、その人にとってやはり、年に一度の区切りとなる特別な日である。特別な日である誕生日を、「**自分史**」を丁寧に振り返る、**特別な一日**にしてもらいたいと思う。立ち止まり、じっくりと周囲を見渡す機会にしてもらいたい。そして家族や友人など周りに感謝する機会にもしてもらいたい。自分一人ではないことに改めて気付いてほしいと思う。いくつになっても誕生日は、1年前の自分と何が違うか、じっくり見比べ考えて、成長した自分を見つけることができる、そういう一日であってほしい。

過ぎてみて分かることがある——高校時代、誰にとってもいずれは過去となるこの時期が、小さな「宝石」のようだったこと…。私たちは、「With コロナ」の時代の始まりを生きている。コロナだからできなかったということだけではなく、「コロナだからできた」ことも思い浮かべてみよう。大人になって振り返る時、この槇峰の丘で過ごす君たちの日々が、充実した「光り輝く時代」として思い出せるようになることを心より願っている。そうなるようにしていこう。何はともあれ、今日が誕生日の人、おめでとう！ 何も無いけど、せめてもの花束を…。

